

## 県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	クラブ連盟
大会名	平成28年度 関東総合バスケットボール選手権大会		
期 間	平成28年11月26日(土)、27日(日)		
会 場	武蔵野総合体育館		

### スケジュール

期 日	内 容	場 所	
11月25日(金)	審判会議・レクチャー	武蔵野総合体育館	
11月26日(土)	男女1回戦	武蔵野総合体育館	
11月27日(日)	男女準決・決勝	武蔵野総合体育館	

### 会議 講義 内容

渡邊 整 関東ブロック長

来年度からは全日本総合選手権の形が大きく変わり、今大会が最後の関東総合選手権となり「正しく強い」チームが勝ち上がり、最終的に関東ブロック代表に相応しいチームが最後の大会を締め上げてくれるように、我々も準備し皆で協力して臨みたい。  
と、今大会への想いを話された。

-----  
安西 郷史 氏(指名)

FIBAからの制裁、解除、そしてB Leagueの開幕に向けて、日本協会そして審判委員会が大きく変わろうとしている今日までの激動の1年間について語られました。

2006年の世界選手権より正式採用された3POメカニクス。次々と新しい用語や解釈の情報が流れてくる中で、表面的な言葉尻だけを拾ってしまうのは非常に危険なことである。一つひとつの言葉が何を言わんとしているのか、しっかりと汲んでいかなければならない。このような中で、審判の動きの「四原則」については、今までもこれからも何ら変わらない。「判定を下す際には動きながらにならないように」というのはずっと言われ続けていることだし、「常に良い位置取りを求める」というのはこれからも同じ。大切なのは「その時、その場、そのプレーに対応する(Adjust)」こと。

と、講義をして頂いた。

細かな内容については、それこそ言葉が独り歩きをしては困る為、割愛させて頂くこと、予め御了承願います。

担当試合	期 日	平成28年11月26日	男子	1回戦
	対戦カード	筑波大学(茨城) VS	鏗阿(栃木)	主審
	相手審判	管 祐介 氏(東京)		

ミーティング内容 主任 緒方 崇 氏(東京)

試合の入り方から全体として大きな問題が起きることもなく、良かった。メカニクスとして、エリア3からのストロング・サイドへのドライブやカッティングの最後のスペースをトレイル・オフィシャルがどのように捉えるか。リバウンドがエリア5・6に落ちた後のプレイをどのタイミングまでトレイルが見守っているべきか。というような3POでのセンター・オフィシャルの役割をトレイルが担うということをより強く意識すること。吹いたものの中で、試合終盤に取り上げなくともよいものを選択するとよりスムーズに進行できる。

	期 日	平成28年11月27日	女子	準決勝
担当試合	対戦カード	日本女子体育大学 VS 山梨学院大学		U2
	相手審判	R:渡邊 整 氏(栃木) U1:村上 恵美 氏(神奈川)		
ミーティング内容		主任 吉田 憲生 氏(指名)		
自身のプライマリー・エリア若しくはセカンダリー・エリア(ボール・サイド)でのプレイに対して、どのタイミングで笛を入れるかの決断力を。絶対にプライマリーとして溢してはならないものが吹けなかったり、逆にコンタクトはあるが、まだ鳴らすべきではないコンタクトに笛を入れてしまう。よりプレイを長く、先まで見て決断することが必要。				
全体の感想				
<p>各都県、全カテゴリーの代表として、全日本総合選手権をかけたの大会ということで、非常にハイレベルな大会であった。今大会で最後となる関東総合バスケットボール選手権大会に携われたことをうれしく思う。異なるカテゴリー同士の試合の難しさ、レベルの高い試合において、本当に必要な笛をどのタイミングで入れるかの難しさを痛感した。誰がどこでどのタイミングで吹くかで全く伝わり方が違って来る。いつ、どこで、どのように示し伝えるか。吹いて示すものと、吹かずにコントロールすること等、抑揚も含めて今後の課題である。</p> <p>この度、東京都協会の方には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。今大会の経験を埼玉県に少しで還元できるように精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しく願い致します。</p>				